

大学院生シンポジウム GS05

患者の QOL 改善を目指した薬学基礎研究

Basic Research in Pharmacy for Improvement of Patient's Quality of Life

篠田 康晴¹, 西澤 由紀彦²

¹東北大院薬, ²鹿児島大医歯学総合

今日、本邦では急速な高齢化や生活習慣の悪循環により、がん、循環器疾患、脳梗塞が多発し、死因の主な原因となっている。万一、急場を免れても、これらの疾患は予後が極めて不良で、患者の生活の質（QOL）は改善されない。薬学が6年制になり、病院や介護施設での薬剤師の臨床スキルが重視されているのと同時に、薬学では患者の QOL を改善するための基礎研究のニーズも高まっている。本シンポジウムでは薬学生として QOL 改善のため、何ができるのかを討論する。具体的には、基礎研究あるいは臨床研究を行っている学生6名が講演を行う。本邦の学生に加えて、蘇州大学薬学部の学生が発表に参加し、中国における薬学での基礎研究と臨床教育の実状を紹介する。基礎研究および臨床研究に携わる大学院生らが一堂に会し発表および意見交換をすることで、新たな知識や発想および交流の場が得られることが期待できる。これは、今後の薬学を担う若手研究者たちにとって非常に有益なことであると考えられる。また、QOL の改善を目的として、薬学研究は何ができるのかについてシンポジストおよび聴講者の間で意見交換することができ有益である。